

平成 26 年度
地域医療再生学講座（寄附講座）活動報告書

平成 27 年 3 月

愛媛大学大学院医学系研究科

地域医療再生学講座

地域医療再生学（寄付）講座の平成 26 年度を振り返って

久門良明（地域医療再生学講座主任教授）

当講座は平成 22 年 4 月に開設されました。当初は 4 年間の予定でしたが平成 26 年度より 2 年間延長されることになりました。これまでの経過（昨年の畠山教授の序文を参考に）と、平成 26 年度の 1 年間を振り返りたいと思います。

国は問題を抱える地域医療への対応として、平成 21 年度から 25 年度までの 5 年間に「地域医療再生交付金事業」として、各都道府県内にある 2 ヶ所の 2 次医療圏に 1 ヶ所 25 億円ずつの資金を交付しました。愛媛県は医師不足で救急医療等の問題を抱えていた八幡浜・大洲圏域と県立三島病院の民間委譲に伴う地域医療の混乱が予想された宇摩圏域（四国中央市）を交付地域に選定しました。そして県は両地域の医療支援目的で、交付金の一部を愛媛大学に寄付し、その資金をもとにして平成 22 年 4 月に八幡浜・大洲圏域を担当する「地域救急医療学」と宇摩圏域を担当する「地域医療再生学」の 2 つの寄附講座開設と地域医療支援センター建設（平成 23 年 8 月完成）が行なわれました。

当初、畠山隆雄教授（脳神経外科）、今川 弘教授（心臓血管外科）、篠原直樹助教（脳神経外科）、村尾紀久子助教（小児科）の 4 名で構成され、その後小児科医師は中野直子助教（平成 23 年 4 月より）、本田美里助教（平成 24 年 4 月より）、西村幸士助教（平成 24 年 11 月より）に代わりました。四国中央市市役所の「地域サテライトセンター」を通じて公立学校共済組合四国中央病院に小児科医師、社会医療法人 HITO 病院に他の 3 名の医師が派遣され、専門科の業務と救急医療の支援にあたっています。教育面では、愛媛大学医学部から平成 22 年 5 月より 5 年生の選択型臨床実習が、平成 24 年度より 1 年生の介護体験実習が HITO 病院において開始されました。また、地域医療支援センターを介して、愛媛大学医学部附属病院との「タスキ掛け方式」で平成 24、25 年度に 1 名ずつの初期研修医の研修が HITO 病院にて行なわれました。

平成 23 年 11 月からは愛媛県の地域診療機能強化事業により、宇摩圏域では「心筋梗塞患者における救急隊-病院連携体制の構築」と「脳卒中地域連携・相談機能の強化」の事業が展開されました。前者は、二次救急病院に心電図データを伝送し、専門医が治療方針や搬送先を決定することより、治療開始までの時間短縮を図るための、救急隊と病院の連携体制を強化するものであり、平成 26 年度からは、四国中央市（四国中央消防署）がこれまでの業務を引き継ぎました。後者の活動としては、四国中央保健所と四国中央市の支援を受けて、脳卒中患者について、クリティカルパスを用いた急性期から維持期までの地域医療連携体制の構築、脳卒中地域連携相談センターの設置、および維持期での医療・介護関係者や患者・家族が患者情報を共有するための患者管理手帳「脳卒中ノート」の作成・運用を行なっています。24 年 9 月より地域連携パスの運用が開始され、退院後の脳卒中維持

期患者に対しては脳卒中ノートが配布されました。同事業は、事務局が宇摩医師会内からHITO 病院内の愛媛大学サテライトセンターに移りましたが、当講座が継続して行なっています。

平成 26 年 4 月からは、畠山教授、今川教授に代わって、私と間島直彦（整形外科）が担当しています。私は篠原助教とともに、前出の「脳卒中地域連携・相談」事業を引き継いで、懸案の維持期や在宅医療とのクリティカルパスを介した連携体制構築を進めています。また、HITO 病院での脳卒中を中心とする脳神経外科診療に対し愛媛大学と連携して対応するとともに、脳卒中関連の講演会を通して宇摩圏域の先生との情報交換、市民相談や市民への脳卒中講演による啓蒙活動に務めています。間島准教授は、関節手術のエキスパートとして、HITO 病院での診療に携わるとともに、地域の医師との学术交流や運動能力低下による転倒骨折防止のために「ロコモ体操」の市民普及を図っています。西村助教は、四国中央病院にて呼吸器疾患を中心とした診療とともに、当圏域の小児救急医療体制の構築に尽力しています。また今年度も HITO 病院にて、5 年生の選択型臨床実習、クリニカルクラークシップと初期研修医の研修が行なわれました。以上の診療および教育業務に加えて、多くの臨床的研究を行い、地域医療に貢献しています。サテライトセンターの宮内涼子さんには、これまでの脳卒中地域連携および相談事業を継続して頂いております。学内の教室では、本田聖子さんに様々な当講座の事務的業務をして頂き、恙無く 26 年度も終わろうとしています。

篠原助教の退官により昨年 10 月から半年間は欠員となりましたが、来年度からは新メンバーが加わりパワー・アップ（・リカバリー）します。平成 26 年 12 月 1 日の第 4 回地域医療再生セミナーで、私と間島准教授（平成 27 年度から教授昇任）の二人は 1 年の活動を振り返り、来年度に向けて新たな目標も明確になりました。「地域医療の再生」を目標に、スタッフが協力しあって、講座名に恥じないように、その使命を果たしていきたいと思いません。

平成 26 年度活動実績等

[1] 教育活動

- 4 月 21 日～5 月 2 日 診療参加型選択実習（医学科 6 年生 2 名）【久門・間島・篠原】
- 6 月 11 日 講義：「骨粗鬆症と関連疾患」 教育学部 1 年生【間島】
- 6 月 16 日 講義：「小児の下肢関節疾患と、成人の股関節疾患」医学部 4 年生【間島】
- 7 月 8 日 講義：「脳卒中の話」 城北開講共通教育：こころと健康 【久門】
- 9 月 22 日～26 日 介護体験実習（医学科 1 年生 4 名）【久門・間島・篠原】
- 10 月 17 日 講義：「脳血管障害 1：出血性脳血管障害」 医学部 4 年生【久門】
- 10 月 31 日 講義：「脳血管障害 2：虚血性脳血管障害」 医学部 4 年生【久門】
- 11 月 21 日 観的臨床能力試験（OSCE）のための実習（医学科 4 年生）【間島】
- 12 月 22 日 学位論文（課程博士）公開審査会 審査委員【久門】
- 1 月 6 日 学位論文（課程博士）公開審査会 審査委員【久門】
- 3 月 16 日～27 日 参加型臨床実習（医学科 5 年生 3 名）【久門・間島】

[2] 研究活動

久門：「梗塞巣への浸潤細胞を使って脳梗塞を治す」

（科学研究費助成事業：基盤研究 C H26～28 年度）

[3] 学会発表

久門

- 9 月 13 日 第 19 回日本脳腫瘍の外科学会（東京都 東京ドームホテル）
演題：「中枢神経系血管芽腫の手術成績と手術操作の要点」
- 10 月 10 日 第 73 回日本脳神経外科学会総会
（東京都 グランドプリンスホテル新高輪）
演題：「頸動脈狭窄症の治療戦略：発症早期の外科的治療は推奨されるべきか？」
- 11 月 21 日 第 26 回日本脳循環代謝学会総会 岡山県（岡山コンベンションセンター）
演題：「脳動脈瘤クリッピング術が脳に及ぼす影響：年齢による違い」
- 11 月 28 日 第 21 回日本神経内視鏡学会（東京都 浅草ビューホテル）
演題：「内視鏡支援下の脳動脈瘤クリッピング術：重篤な穿通枝梗塞を防ぐために」

- 2月13日 第38回日本脳神経CI学会総会（愛知県 ウィンクあいち）
演題：「4D超音波診断装置による頸動脈病変の画像診断
治療方針決定への貢献」
- 3月27日 第44回日本脳卒中の外科学会（広島県 メルパルク広島）
演題：発症後早期に行なう頸動脈内膜剥離術：手術手技
周術期管理の工夫と治療成績」
- 3月28日 第40回日本脳卒中学会（広島県 広島グリーンアリーナ）
演題：「愛媛県における脳卒中医療連携の現状と課題」
- 間島
- 7月12日 第14回日本術中画像情報学
（東京都 東京大学伊藤国際学術研究センター）
演題：「破裂脳動脈瘤の術前シミュレーションにおける
3次元融合画像の有用性」
- 西村
- 6月7日 愛媛小児吸入療法研究会 小児エデュケーター制度 吸入指導研修会
（四国中央市 四国中央病院）
演題：「小児における吸入療法で注意したいこと
～小児科医師に立場から～」
- 8月24日 第42回西日本小児アレルギー研究会
（福岡県 ホテルニューオータニ博多）
演題：「敗血症様症状を呈した新生児・乳児消化管アレルギーの1例」
- 11月8日 第51回日本小児アレルギー学会（三重県 四日市市文化会館）
演題：「喘鳴を伴う下気道感染症に対する麻杏甘石湯の治療効果」

[4]論文発表等

- 頸動脈狭窄に対する発症急性期ないし亜急性期血行再建術の手術成績
久門良明、渡邊英昭、田川雅彦、井上明宏、山下大介、松本調、大西丘倫
脳循環代謝 25(2):15-21, 2014

- 頸動脈狭窄性病変に対する3次元超音波イメージングの意義：他の画像診断法と比較して
久門良明、渡邊英昭、田川雅彦、松本 調、大西丘倫、伊賀瀬圭二、松原一郎、貞本和彦
CI 研究 35(2):81-88, 2013 (25年版 26年出版)

- 頭部救急医療における2管球高性能CTが果たす役割
久門良明、篠原直樹、石原 学
月刊新医療 10月号：37-41, 2014

- Utility of 3-dimensional ultrasound imaging to evaluate carotid artery stenosis: Comparison with magnetic resonance angiography.
Igase K, Kumon Y, Matsubara I, Arai M, Goishi J, Watanabe H, Ohnishi T, Sadamoto K
J Stroke Cerebrovas Dis. 24(1): 148-153, 2015

- Surgical results of tumor resection using tractography-integrated navigation-guided fence-post catheter technique and motor-evoked potentials for preservation of motor function in patients with glioblastomas near pyramidal tracts.
Ohue S, Kohno S, Inoue A, Yamashita D, Matsumoto S, Suehiro S, Kumon Y, Kikuchi K, Ohnishi T.
Neurosurg Rev. 2014 Nov 19 DOI 10.1007/s10143-014-0593-z

- Microvasculature of carotid atheromatous plaques: hemorrhagic plaques have dense microvessels with fenestrations to the arterial lumen.
Kurata M, Nose M, Shimazu Y, Aoba T, Kohada Y, Yorioka S, Suehiro S, Fukuoka E, Matsumoto S, Watanabe H, Kumon Y, Okura T, Higaki J, Masumoto J
J Stroke Cerebrovasc Dis. 23(6):1440-1446, 2014

- Activated microglia in a rat stroke model express NG2 proteoglycan in peri-infarct tissue through the involvement of TGF- β 1.

- Sugimoto K1, Nishioka R, Ikeda A, Mise A, Takahashi H, Yano H, Kumon Y, Ohnishi T, Tanaka J.
Glia 62(2):185-198, 2014

- 頸動脈ステント留置術後に合併したステント内血栓症の発症要因に関する検討.
尾崎沙耶, 田川雅彦, 松本 調, 井上明宏, 渡邊英昭, 久門良明, 大西丘倫
No Shinkei Geka 42(11):1009-1017, 2014

- Ethmoidal dural arteriovenous fistula with unusual drainage route treated by transarterial embolization.
Inoue A, Tagawa M, Kumon Y, Watanabe H, Shoda D, Sugiu K, Ohnishi T
J Neurointerv Surg 2014 Mar 28. doi:10.1136/neurintsurg-2013-011098. rep.

- 塞栓子（白色血栓）を予測してPenumbra SysytemよりMerci Retrieval systemに速やかに変更することで血行再建し得た頭蓋内内頸動脈閉塞症の1例.
井上明宏, 田川雅彦, 久門良明, 尾崎沙耶, 西川真弘, 渡邊英昭, 大西丘倫
No Shinkei Geka 42(6):567-574, 2014

- Mid-term clinical and radiographic outcomes of porous tantalum modular acetabular components for hip dysplasia.
Kamada T, Mashima N, Nakashima Y, Imai H, Takeba J, Miura H.
J Arthroplasty. ; In Press Corrected Proof, Published online : November 10, 2014

- A three-dimensional computed tomography study of distal femoral morphology in Japanese patients: gender differences and component fit.
Ishimaru M, Hino K, Onishi Y, Iseki Y, Mashima N, Miura H.
Knee. 21(6):1221-4. 2014

- Anterior coverage after eccentric rotational acetabular osteotomy for the treatment of developmental dysplasia of the hip.

Imai H, Kamada T, Takeba J, Shiraishi Y, Mashima N, Miura H.
J Orthop Sci. 19(5):762-9. 2014

[5]研究会・学会・セミナー・研修会等

久門

- 5月17日 第34回日本脳神経外科コンgres総会 (大阪府 大阪国際会議場)
9月6日 第16回中国四国脳卒中研究会 (広島県 広仁会館)
9月12日 第19回日本脳腫瘍の外科学会 (東京都 東京ドームホテル)
10月9日 日本脳神経外科学会第73回学術総会
(東京都 グランドプリンスホテル新高輪)
11月28日 第21回日本神経内視鏡学会 (東京都 浅草ビューホテル)
12月6日 第78回日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会
(岡山県 倉敷市芸文館)
1月24日 第52回愛媛脳神経外科懇話会特別講演会 (松山市 大和屋本店)
2月13日 第38回日本脳神経CI学会総会 (愛知県 ウィンクあいち)

座長

- 5月28日 Ehime Stroke Conference 2014 (松山市 松山全日空ホテル)
5月30日 第7回愛媛 Brain Attack ForumII (松山市 松山全日空ホテル)
7月23日 Ehime Summer Stroke Conference2014 (松山市 道後山の手ホテル)
9月26日 第7回愛媛脳卒中シームレス研究会・学術講演会
(松山市総合コミュニティセンター)
10月10日 第73回日本脳神経外科学会総会
(東京都 グランドプリンスホテル新高輪)
11月14日 第10回脳卒中アップデート (松山市 いよてつ会館)
11月21日 第26回日本脳循環代謝学会 (岡山県 岡山コンベンションセンター)
2月20日 第2回宇摩ブレインアタックフォーラム
(四国中央市 ホテルグランフォーレ)
2月27日 第25回回復期リハビリテーション病棟協会研究大会 in 愛媛
(松山市 ひめぎんホール)
3月11日 Ehime Stroke Conference 2015(松山市 松山全日空ホテル)
3月13日 愛媛県 Core Member Meeting (松山市 ふなや)
3月26日 第40回日本脳卒中学会 (広島県 リーガロイヤルホテル)

間島

- 4月11日 第122回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会
(岡山県 岡山コンベンションセンター)

- 5月22日 第87回日本整形外科学会学術総会（兵庫県 神戸ポートピアホテル）
 7月6日 第10回愛媛大学外傷勉強会（東温市 愛媛大学）
 7月11日 第4回運動器と痛みの国際シンポジウム
 （東京都 リーガロイヤルホテル東京）
 10月17日 第4回Advanced Training Course for Total Hip Arthroplasty
 （台湾 HOWARD PRINCE・IRCAD
 TAIWAN）
 10月31日 第41回日本股関節学会学術集会（東京都 京王プラザホテル新宿）
 11月30日 第8回四国外傷治療研究会（香川県 ロイヤルパークホテル高松）
 12月11日 第8回しまなみ骨・関節フォーラム（松山市 大和屋本店）
 2月27日 第45回日本人工関節学会（福岡県 福岡国際会議場）
 3月14日 第32回四国関節外科研究会（徳島県 あわぎんホール）
 3月20日 四国中央市骨粗鬆症リエゾン研究会
 （四国中央市 ホテルグランフォーレ）

座長

- 7月19日 第2回愛媛リウマチ関節外科を語る会（松山市 大和屋本店）
 11月9日 第47回中国・四国整形外科学会
 （広島県 しまなみ交流館テアトロシェルネ）
 3月7日 第14回愛媛関節セミナー（松山市 えひめ共済会館）

篠原

- 6月12日 第29回日本脊髄外科学会（東京都 ステーションコンファレンス東京）
 6月13日 第16回日本医療マネジメント学会学術総会
 （岡山県 岡山コンベンションセンター）

西村

- 4月11日 第117回日本小児科学会学術集会（愛知県 名古屋国際会議場）
 4月13日 第42回日本小児東洋医学会学術集会（愛知県 安保ホール）
 4月17日 愛媛大学小児科アレルギー勉強会（東温市 愛媛大学医学部）
 5月9日 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会（京都府 国立京都国際会館）
 6月5日 第46回宇摩小児科医会定例会（四国中央市 宇摩医師会館）
 6月16日 愛媛県小児気管支喘息学術講演会（松山市 松山全日空ホテル）
 6月19日 愛媛大学小児科アレルギー勉強会（東温市 愛媛大学医学部）
 6月21日 第26回四国小児アレルギー研究会（松山市 松山全日空ホテル）
 6月28日 第31回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会
 （愛知県 名古屋国際会議場）

- 7月26日 第7回愛媛小児吸入療法研究会（松山市 アパホテル松山城西）
- 8月1日 第8回相模原臨床アレルギーセミナー（神奈川県 パシフィコ横浜）
- 8月21日 愛媛大学小児科アレルギー勉強会（東温市 愛媛大学医学部）
- 8月24日 第42回西日本小児アレルギー研究会
（福岡県 ホテルニューオータニ博多）
- 9月13日 愛媛 TARC セミナー（松山市男女共同参画推進センター）
- 9月18日 愛媛大学小児科アレルギー勉強会（東温市 愛媛大学医学部）
- 10月4日 第20回愛媛小児アレルギー懇話会（愛媛県 ホテルサンルート松山）
- 10月16日 愛媛大学小児科アレルギー勉強会（東温市 愛媛大学医学部）
- 10月18日 第1回愛媛県小児内分泌フォーラム（松山市 ひめぎんホール）
- 11月6日 愛媛大学小児科アレルギー勉強会（東温市 愛媛大学医学部）
- 11月8日 第51回日本小児アレルギー学会（三重県 四日市市文化会館）
- 12月4日 宇摩小児科医会学術講演会（四国中央市 ホテルグランフォーレ）
- 1月23日 愛媛大学小児科アレルギー勉強会（東温市 愛媛大学医学部）
- 2月1日 第15回食物アレルギー研究会（東京都 昭和大学）
- 3月20日 愛媛大学小児科アレルギー勉強会（東温市 愛媛大学医学部）
- 座長
- 4月18日 宇摩医師会アレルギー研修会（四国中央市 宇摩医師会館）

[6] 社会貢献

(1) 各種委員会

- 6月11日 宇摩地区脳卒中地域連携パス検討会（四国中央市 HITO 病院）【久門】
- 6月30日 宇摩地区大腿骨頸部骨折地域連携パス検討会
（四国中央市 四国中央病院）【間島】
- 2月10日 宇摩地区大腿骨頸部骨折地域連携パス検討会
（四国中央市 ホテルグランフォーレ）【間島】
- 2月26日 宇摩地区脳卒中地域連携パス検討会（四国中央市 HITO 病院）【久門】

(2) 講演会等

- 4月15日 徳島県脳卒中カンファランス（徳島市 ホテルクレメント徳島）
演題：「脳卒中の外科的治療～直達手術と血管内手術の果たす役割」
【久門】 参加人数 30名
- 4月18日 【ELQ】今治医師会講演会（今治市 今治国際ホテル）
演題：「脳梗塞の治療一今、知っておきたいこと」
【久門】 参加人数 40名
- 4月21日 第69回広島市東区医師会学術講演会（広島県 ホテルグランヴィア広島）
演題：「脳梗塞の新たな治療戦略」【久門】 参加人数 50名
- 5月30日 HITO 病院脳卒中相談会（四国中央市 HITO 病院）【久門・篠原】
- 7月31日 宇摩ブレインアタックフォーラム（四国中央市 ホテルグランフォーレ）
演題：「地域における HITO 病院脳卒中センターの果たす役割」【久門】
演題：「HITO 病院脳卒中センターの現状」【篠原】 参加人数 50名
- 8月16日 第2回集団栄養教室（四国中央市 HITO 病院）
演題：「脳梗塞と血圧管理」【篠原】 参加人数 45名
- 8月28日 HITO 病院 第6回 地域医療講演会（四国中央市 HITO 病院）
演題：「脳卒中にならないために」【久門】 参加人数 200名
- 9月9日 第35回宇摩運動器疾患研究会 四国中央市 宇摩医師会館
演題：「骨粗鬆症について」【間島】 参加人数 15名

- 9月10日 第4回「宇摩地区脳卒中地域連携パス検討会」講演会
(四国中央市保健センター)
演題：「脳卒中地域医療連携への期待」【久門】 参加人数 77名
- 9月11日 四国中央病院市民公開講座 (四国中央市 四国中央病院)
演題：「子どもの食物アレルギーについて知ろう」
【西村】 参加人数 30名
- 9月18日 第8回医療連携講演会 (四国中央市 HITO 病院)
演題：「頸動脈狭窄症の治療」【久門】 参加人数 8名
- 9月30日 脳卒中フォーラム in Hakodate (北海道 函館国際ホテル)
演題：「脳梗塞の現状と今後の展望」【久門】 参加人数 60名
- 10月17日 島根県 Care AF 講演会 (島根県 出雲ロイヤルホテル)
演題：「脳梗塞の現状と今後の展望」【久門】 参加人数 30名
- 10月21日 大洲・八幡浜 Embolism Conference (大洲市 たる井)
演題：「心原性脳塞栓症治療のリアルワールド」【久門】 参加人数 40名
- 10月29日 HITO 病院脳卒中相談会 (四国中央市 フジグラン川之江店)【久門】
- 11月5日 愛媛県 Care AF 講演会 (松山市 松山全日 空ホテル)
演題：「心房細動患者の抗凝固療法の現状を考える」
【久門】 参加人数 100名
- 11月6日 病診連携カンファレンス (広島県 呉共済病院)
演題：「脳卒中治療：現状とこれから」【久門】 参加人数 40名
- 11月25日 第1回ロコモ教室 (四国中央市 HITO 病院)
演題：「ロコモについて」【間島】 参加人数 2名
- 11月26日 宇摩地区医療連携カンファレンス 2014
(四国中央市 ホテルグランフォーレ)
演題：「当地区に於ける血栓予防への新たな取り組み」

【久門】 参加人数 30 名

- 12 月 1 日 第 4 回地域医療再生セミナー
(愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター)
演題：「地域医療の再生を目指して～理想と現実の狭間で～」【久門】
演題：「骨脆弱性骨折の二次予防を目指した宇摩地区での取り組み」【間島】
参加人数 140 名
- 12 月 7 日 第 32 回ヘルスアカデミー「脳卒中にならないために」
(松山市 いよてつ高島屋)
演題：「脳卒中にならないために～みなさんのできること～」【久門】
参加人数 250 名
- 12 月 16 日 第 2 回ロコモ教室 (四国中央市 HITO 病院)
演題：「ロコモと骨粗鬆症について」【間島】 参加人数 11 名
- 1 月 20 日 第 3 回ロコモ教室 (四国中央市 HITO 病院)
演題：「ロコモと骨折」【間島】 参加人数 8 名
- 1 月 20 日 第 36 回宇摩運動器疾患研究会 (四国中央市 宇摩医師会)
演題：「股関節疾患に対する手術治療の現況」【間島】 参加人数 16 名
- 2 月 7 日 第 28 回骨をかたる会 (松山市 リジェール松山)
演題：「創外固定を用いた四肢骨関節手術の治療経験」
【間島】 参加人数 10 名
- 2 月 24 日 第 4 回ロコモ教室
演題：「ロコモとサルコペニアについて」【間島】 参加人数 18 名
- 2 月 25 日 高知東部医療連携カンファレンス (高知県 サザンシティホテル)
演題：「脳卒中診療における病診連携の意義」【久門】 参加人数 20 名
- 3 月 24 日 第 5 回ロコモ教室
演題：「栄養とロコモ」【間島】 参加人数 13 名

[7] 診療

久門：月～水曜日（午前） 水（午後）～金曜日	愛媛大学附属病院 脳神経外科外来診療・手術 HITO 病院外来診療・手術・病棟診療等 患者数 20 名/日
間島：月（午後）～水曜日 木～金、月曜日（午前）	HITO 病院外来診療・手術・病棟診療等 患者数 15 名/日 愛媛大学附属病院 整形外科外来・手術
篠原：月～金曜日	HITO 病院外来診療・手術・病棟診療等 患者数 50 名/日 日・当直（1～2 次救急診療）3 回/月
西村：月～金曜日	四国中央病院外来・病棟診療等 患者数 20～30 名/日 当直 5～6 回/月

患者が望む医療を提供できる地域医療体制造りと継続性

地域医療再生学講座 教授 久門良明

「地域医療再生学講座」は、深刻な医師不足や高齢化問題を抱える宇摩地区の医療再生を図るため、平成22年に愛媛県からの寄附により開設されました。宇摩地区の医師の皆さんは非常に重い負担を抱えながら、孤軍奮闘されています。様々な課題を解決するため、単に大学病院から医師を派遣するのではなく、宇摩地域の基幹病院と大学病院の連携を円滑に進めることが当講座の最大の役割と考えます。若い医師が地域でも専門医としてのキャリアをつめるシステム創りが必要であり、システムを「できるシステム」に変えなくてはならないと強く感じます。また、地域の医療機関とは勿論、行政との連携も欠かせません。四国中央市では、すでに市役所と保健所が脳卒中の医療連携に加わっており、これをモデルケースとしてアピールすることで、県下の他の地域でも同じような取り組みができればと思います。

教育面では、学生や若い医師の意識を地道に変えていく努力をしていきたいです。現場を担う医師として、地域医療の現状や重要性を伝えていきます。また、先輩医師としては、彼らに研究する気持ちを失わないでほしいと伝えたいです。物事を解決する手法というのは、研究する過程で学んでいくのではないのでしょうか。本質をつかむための努力を忘れないでほしいです。そして、教科書で勉強しなさいと伝えたいです。ネットでは全体像を掴むことが難しく、応用がきかなくなってしまう。研究マインドや好奇心を育て、物事を俯瞰的に捉える力を身につけてほしいと思います。



PROFILE

くもんよしあき◎高知県出身、1977年県立和歌山医科大学卒業。日本脳神経外科学会・日本脳卒中学会専門医、日本神経内視鏡学会認定医、日本脳卒中協会愛媛県副支部長。1979年愛媛大学脳神経外科学講座に入局し、県立中央、県立今治、市立宇和島病院にも勤務。脳梗塞の基礎研究、脳卒中・脳腫瘍手術に専心、2014年から退職。

INVITATION (愛媛大学医学部附属病院広報誌) VOL37 2014

ニュース交差点

★脳卒中予防法アドバイス★四国中央
全国脳卒中週間(5月25~31日)に合わせ、
四国中央市上分町のHITO病院で30日、
脳卒中の予防や治療、後遺症などに関する
相談会があった。

病院が初めて開き、相談は電話、ファクス、面談で受け付け。動脈瘤(りゅう)の手術を受けた後の健康状態のほか、兆候や受診のタイミングなどの相談が市民から寄せられ、個別ブースで医師、保健師、看護師らが助言した。動脈硬化の無料検査を受け結果を見てもらった自営業石川広生さん(51)＝村松町＝は「食事や運動量を見直し、

健康に気を使いたい」と話した。

脳卒中センター長の久門良明医師(62)は「予防法、後遺症とのつきあい方や退院後のリハビリなど、脳卒中を取り巻く患者や家族の不安は幅広い。市民や専門外の医療従事者にも対策を知ってもらう必要がある」と呼び掛けた。



医師らが脳卒中の予防法などについて対応した相談会

2014年6月2日 愛媛新聞

4月より地域サテライトセンターに新しく2人の先生が着任されます

患者さまへひとこと——脳卒中や脳腫瘍などの脳神経疾患の予防や治療を担当致します。患者さまの納得できる、より良い治療を心がけていきたいと思っております。なんなりとご相談下さい。

専門分野——脳神経外科(脳卒中や脳腫瘍など脳神経疾患の治療)
専門医、認定医など——日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本神経内視鏡学会認定医
所属学会——日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、日本脳卒中の外科学会、日本脳腫瘍の外科学会、日本神経外傷学会など
出身大学——県立和歌山医科大学
卒業年度——昭和52年卒業
モットー——誠実、堅実、結果



脳卒中センター
センター長
くもん よしあき
久門 良明

患者さまへひとこと——整形外科疾患に受傷や罹患することで、著しく日常生活が制限されQOL(生活の質)が低下してまいります。学生や青壮年の場合、スポーツや仕事で本来のパフォーマンスが発揮できなくなります。笑顔のある日常生活を取り戻せるよう、正確な診断と確実な治療を行うまいります。お気軽にご相談ください。

専門分野——関節外科、人工関節、スポーツ整形 四肢の変形矯正・延長
関節感染症、四肢の変形矯正・延長
専門医、認定医など——日本整形外科学会認定医、日本体育協会公認スポーツドクター
所属学会——日本整形外科学会、日本人工関節学会、日本股関節学会、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、日本創外固定・骨延長学会
出身大学——愛媛大学
卒業年度——昭和62年卒業
モットー——正確な術前計画と確実な手術、患者さまにあった治療



整形外科
部長
ましまし
間島 直彦

HITO NEWS NO.3 2014年4月号

パクロフェン療法

疼痛をやわらげることで、日常生活の質を高め、生活を豊かにすることを目的としています。

カテーテル：脳脊髄液を流すための管
ポンプ：カテーテルから脳脊髄液を流すための装置

脳脊髄液にパクロフェンを注入することで、疼痛をやわらげ、日常生活の質を高めます。

カテーテルから脳脊髄液を流すことで、疼痛をやわらげ、日常生活の質を高めます。

ポンプは、脳脊髄液を流すための装置で、カテーテルから脳脊髄液を流すことができます。

本日より、愛媛県でも一部の病院でしか行われていない機能的脳神経外科の診療をスタートしました。

機能的脳神経外科とは、あまのい(たこのない)疾患ではないかと思いが、近年急速に増加している、分限性(びんげんせい)の脳神経疾患です。

現在、当院で治療可能な病気は、「痙攣(けいれん)」「筋硬直(きんこうちく)」と、「痙攣」とは、脳卒中や頭外傷などの麻痺が生じた後に下肢の痙攣が自分の意志とは無関係に起こりますが、痙攣の方では、痙攣が自分の意志で起こります。

1. 歩行、歩行などが行えない、行にくい。
2. 食事の摂りにくさ、飲み水の飲みにくい。
3. よく寝れない。
4. 体じまのつけや痛みがある。

筋硬直の症状
筋硬直とは、筋が固くなり、動きにくくなることです。

筋硬直の症状
筋硬直とは、筋が固くなり、動きにくくなることです。

機能的脳神経外科診療

5. 思うようにリハビリテーションがうまくいかない。
6. つきつきの介護が必要である。

筋硬直は「痙攣」によるもので、痙攣がひどくなると、歩行や歩行などが行えない、行にくい、よく寝れない、食事の摂りにくさ、飲み水の飲みにくい、体じまのつけや痛みがある、思うようにリハビリテーションがうまくいかない、つきつきの介護が必要である。

「痙攣」は「痙攣」によるもので、痙攣がひどくなると、歩行や歩行などが行えない、行にくい、よく寝れない、食事の摂りにくさ、飲み水の飲みにくい、体じまのつけや痛みがある、思うようにリハビリテーションがうまくいかない、つきつきの介護が必要である。

ボトックス治療

ボトックス治療とは、痙攣や筋硬直を改善させるために使われる薬です。

ボトックス治療とは、痙攣や筋硬直を改善させるために使われる薬です。

ボトックス治療とは、痙攣や筋硬直を改善させるために使われる薬です。

ボトックス治療とは、痙攣や筋硬直を改善させるために使われる薬です。

パクロフェン療法

この治療として、パクロフェン療法を行います。

パクロフェン療法とは、痙攣や筋硬直を改善させるために使われる薬です。

パクロフェン療法とは、痙攣や筋硬直を改善させるために使われる薬です。

パクロフェン療法とは、痙攣や筋硬直を改善させるために使われる薬です。

機能的脳神経外科の診療は下記までご予約ください。予約受付：TEL 0896-58-2226

HITO NEWS NO.3 2014年4月号

脳卒中センター 脳神経外科について

脳卒中センターによる 体制の強化

この4月より脳卒中センターを開設し、一刻を争う脳卒中に対して、より迅速な診断・治療を提供できる体制を構築しています。救急隊からの救急搬送はもちろん、クリニックや病院の先生方からの紹介、クリニッヤ患者さまご自身での来院まで、これまで以上に脳卒中急性期治療の充実を目指して参ります。



脳卒中センター長
久門 良明

症状発症3時間以内という超急性期の投与が必要であり、米国では「Time is Brain」の標語のもと「r-FAST」(Face・Arm・Speech・Single)・「AHEAD」(Age・Etiology・Acuity・Disability・Time)の麻痺、意識障害、片側性不良のいずれかが発生したら「Time is Brain」を叫んで救急車を呼ぶという啓蒙まで作られました。平成24年から発症後4.5時間以内までと投与開始時期は延長されましたが、早期の投与ほど高い治療効果が得られるため、MRI撮影から診断・CTおよびMRI撮影・インフォームド・コンセントまでを円滑に行える院内体制の確立が重要でした。

当院でも、治療を受けた患者さまの多くが社会復帰できることをめざして、より迅速な診断と治療の行える体制を強化するために、脳卒中センターを開設致しました。

本ページにおきましては、脳卒中に対する取り組みを知っていただくために、脳卒中センターの特徴や手術実績などをご紹介しております。今後とも地域の皆様により良質な医療を提供できるよう充実を図ってまいります。

Time is Brain.



脳卒中センター
脳神経内科
医師
石原 学



脳卒中センター
脳神経外科
医師
篠原 直樹

脳卒中は、脳出血、くも膜下出血などの脳卒中は緊急治療が必要な病気です。一刻も早く正確な診断をし治療を開始することで、よい結果が期待できます。

当院では、3テスラMRI、128スライスCT、バイプレテン・フラットパネル血管撮影装置などの最新医療機器を導入し、迅速な診断治療ができる体制を整えています。特に脳卒中に対する「コモン療法」(血管に詰まった血栓を溶かし、血流を再開させる薬の点滴治療)は、発症後4.5時間以内の治療開始することができれば、回復を促す効果が最も大きくなると考えられています。

対象疾患

- 脳卒中 (くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、頸動脈狭窄症など)
- 脳脊髄外傷
- 脊椎疾患 (変形性頸椎症、頸性・腰性椎間板ヘルニア、腰部特異性狭窄症など)
- 脳腫瘍
- 脳卒中後遺症などによる癱瘓
- 水頭症など

脳卒中センターの特徴

- 脳外科疾患 24時間救急体制
- 脳梗塞のrt-PA治療が可能
- 24時間 画像診断が可能 (CT、MRI、DSA)
- 2時間以内での緊急脳外科手術が可能
- 超急性期からの集中リハビリテーション
- 地域連携脳卒中クリニカルパス 計画管理病院
- 多種種連携 (脳神経科、心疾患、そのほかの再発危険因子の評価、治療、薬剤・栄養指導)

【平成25年実績】

【当院での救急受入件数】(四国中央病院データ)

平成25年脳卒中患者救急受入状況
(事故種別：急病) 合計201人
うち当院搬送129人 (75.0%)

平成25年脳外科対応患者救急受入状況

(事故種別：急病以外) 合計303人
うち当院搬送173人 (70.6%)

脳卒中入院患者

脳卒中患者受け入れ件数 (平成25年度)
・脳梗塞167例 ・脳出血50例 ・くも膜下出血21例

脳梗塞経急性期の血栓溶解療法 (rt-PA療法実施件数)

平成24年11件 (平成24年1月1日～12月31日実績)
平成25年14件 (平成25年1月1日～12月31日実績)

手術件数 合計85例 (H25年1月1日～H25年12月31日実績)

破綻脳動脈瘤ネッククリッピング	7	脊椎手術	7	血管内手術	3
脳腫瘍 (腫瘍内1例・腫瘍外1例)	2	頸椎前方手術	(1)	破綻脳動脈瘤コイル塞栓術	(3)
CEA (脳動脈血栓内頸動脈)	3	頸椎後方手術	(4)	CAS (頸動脈ステント留置術)	(3)
開頭血腫除去術	6	頸椎後方手術	(1)	PTA (経皮的血管拡張術)	(1)
・脳内出血	(2)	・脊椎腫瘍摘出術	(1)	・脳動脈瘤手術	(1)
・急性硬膜外血腫	(2)	・水頭症手術	(1)	・動脈瘤ろう径入血管閉塞術	(1)
・急性硬膜下血腫	(2)	・脳室腹腔腔鏡術	(7)	慢性硬膜下血腫手術	(2)
定位的血腫吸引術	4	・脳室ドレナージ術	(3)	その他	(2)



脳卒中センター
脳神経内科
医師
井上 愛

リハビリテーション

リハビリテーション科では、患者さまが「帰って来られる」ことを常に念頭に置いて取り組んでいます。



検査機器
128スライス2層CT (GE Healthcare Discovery Flash)
3T MRI (GE Healthcare Magnetom Verio 3T)
手術用顕微鏡 (DAIKI ZEISS OPAL Position 200)
バイプレテンフラットパネル血管撮影装置 (GE Healthcare Ande 514 700)

在宅医療連携

患者さまが抱える障害は、いくつものリハビリが必要で、それぞれが連携して取り組む必要があります。片断的や半断片的な在宅医療の提供は、医療介護連携、地域連携活動などを通じて地域医療連携推進窓口となり迅速な連携、対応に努めます。

● 在宅医療連携推進窓口
「在宅医療連携推進窓口」(地域における医療と介護が連携した包括的かつ継続的な在宅医療の提供) 医療介護連携、地域連携活動などを推進し、地域医療連携推進窓口となり迅速な連携、対応に努めます。

HITO NEWS NO.4 2014年7月号

【脳卒中相談会開催】

平成26年5月30日、脳卒中相談会を開催しました。

HITO病院脳卒中センター長の篠原直樹医師、脳神経外科医師のひとりである向井智子看護師をはじめ、保健師、リハビリなどの専門スタッフが脳卒中に関する相談を承りました。

また健康コーナーでは、機械を使って血管年齢や肺年齢などの測定を実施し、健康の意識啓発を行いました。



HITO NEWS NO.4 2014年7月号

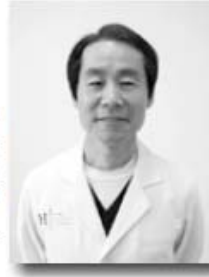
第6回 HITO 病院地域医療講演会

無料

脳卒中にならないために

8/28 (木) 19:00 ~ 20:30

HITO 病院 3階 大会議室



- 内容 脳卒中から命を守り、後遺症の軽減に繋がるよう、脳卒中発症時の症状とその際の適切な対応方法や予防方法などを学んでみませんか
- 講師 久門良明さん
(愛媛大学大学院医学系研究科地域医療再生学講座 サテライトセンター 主任教授、HITO 病院脳卒中センター センター長)
- 対象 医療従事者および一般市民
- 定員 250名程度 (事前の申し込みは必要ありません)
- 問合せ HITO 病院 地域医療介護連携課 29-5704

広報 四国中央市 8月号

～子どものアレルギーのウソ？ホント？～

四国中央病院 市民公開講座

無料

9/11 (木) 14:00 ~ 15:00

四国中央病院 3階 講堂



内容 専門の医師とスタッフが、いろいろな病気の治療法や予防法について、できるだけ分かりやすく講演を行い、ご質問やご相談にもお答えいたします

■演題：子どもの食物アレルギーについて知ろう

講師 西村幸士さん (四国中央病院 小児科医師)

問合せ 四国中央病院 総務課 58-3515

広報 四国中央 9月号



2014. 9. 10 宇摩地区脳卒中地域連携パス検討会・講演会の様子【久門】



2014. 12. 1 第4回地域医療再生セミナーの様子【久門】【間島】